

警城公論

行發日卅・日五十(回二)月毎

福島縣石城郡平町字研町十九番地
編輯兼發行人 山田 政 好

印刷所 二葉印刷所
福島縣石城郡平町字研町十九番地
發行所 警城公論社
電話四〇八番

廣告料 五號十二字詰一行五十錢
場所指定拾錢増

定價 部十錢 一年貳圓四十錢

御わび

政戦終了後暫らく静養せんと
發心いたしました。が、忽ち
して、電燈問題合理的解決促
進運動のため驟起し、月餘調
査研究し、支出費多端のため
數回休刊いたしました。

暮年の一感

敬親措かざる郷人感連想を催してやまぬが故
諸賢!!! 就中、殊に、
本紙愛讀者、並びに賛援者
各位!

本年も、いよいよ、一
日ならずして、逝いて歸
らぬ過去のものとなつて
しまふ。

そのむかし、平家の
鼻雄入道清盛、落日を歸さ
んとして、扇高くふりがさ
し、西山に没せんとする日
影を仰ぎ、

輪を招き戻さんとす。暴舉を
敢行したけれども、山の端
に没む太陽は、入道清盛に
冷笑を浴せつゝ、自然科學
の原理に従つて、而も大聖
の遺徳が如く、最後の

「不可能の文字は、
『不可の辭書』にあり」
と、英雄ナポレオンの言葉
を、
「昭和二年 將に逝かん
として、余が心頭が掠むる
一語は、清盛と落日の物語
である。

讀者諸君 余がかくの
如き古典的物語を挿話する
所以のものを、『落日の感』
と『暮年の感』に共通の聯
中央政界の闘士となつた
ば故郷の一切の現實に對し
く。(十二月廿一日記)

郷土人諸君よ!!!

アルプス越えも、老書生の月
桂冠も事の大小、難易はあ
れど、是れ等しく、自力難
途を驀進して、他方易道を
得たか? 『年の暮れ』... 『年の暮れ』... 『年の暮れ』...
得たか? 『年の暮れ』... 『年の暮れ』... 『年の暮れ』...
得たか? 『年の暮れ』... 『年の暮れ』... 『年の暮れ』...

不肖 山田政好

活を營んで、秋月を賞で
紅葉を觀じて、政戦の疲労
を休めて居たけれども、去
つて、
「郷土警城に遺され
たる使命」を、
「郷土警城に遺され
たる使命」を、
「郷土警城に遺され
たる使命」を、

郷土警城の「自然と人物宣揚」

「自然と人物」

故郷は一種の靈感である。一木一草一水にすら、
れ知れぬ親愛の情緒をもつ。
余が生れふるさと警城の自然、高山大河は無いけれども
又警城の人物、偉人傑士は見當らないが、歌の文句ではな
いけれど「俺か國まで見たものは」のお國自慢を
やつて見たが、是れ等しくお互の感情、郷土愛の感情では
あるまいか?

仁井田浦とその環境及人物

郷土先人の名づけた仁井田浦...
田浦といふ最適の名稱をす
て、新舞子浦とかいふ關
西模倣の名稱を、此の浦に
名づけて得意がる現代石城
人の輕薄なる心事は、實に
見下げ果てたる卑劣低級な
る心根であり、郷土先人に
反逆したる罪惡であらねば
ならぬと斷言する。余は全
石城人が悉く擧げて新舞子
浦の譽言を、模倣名稱を高唱宣
傳するも、余一人だけは仁
井田浦と稱するものであ
る。

「秋の仁井田浦の落日」
此の自然美の印象は、今の
自分にあつては、おぼろげ
日、たま／＼此の浦に一日なるものではあるが、思ひ
の清遊を試み夕に及んだ。出すまゝ、その一端を記
す。 (以下次號)

郡山市組合銀行
鈴木仙松
東部電力株式會社
郡山支店
大安生命保險株式會社
東北支店

湯淺爲之進

川前村長代理	會田惣之丞
助役	松本武雄
收入役	松本武雄
川村會議員	矢内半藏
同	新妻
同	新妻
同	永山長吉
同	矢内伊三
同	竹田熊三
同	矢内安太
同	矢内安太
同	永山龜太郎
同	永山龜太郎
同	永山德一
同	永山德一

帳場の怪人 諸橋元三郎君

人物管見

諸橋元三郎君？君度至つて何々大笑一番すれ漢あり、諦観すれば、君は一個の怪人である。ば、理智の経済人は急轉した。自由人と怪人の怪人とは怪しげなる人物で、温かき人間味豊かなる奇遇。是れ正に幕未剣不可思議なる人間をいふと眞人となる。

君一度怒るや満身の熱血は、常識と字引の教ゆる所ではあるが、しかし、管見逆流して、一死向は辭せざるの謂ふ所の怪人の意味はるの意氣を示す。

更に翻つて君を管見異にする。サレバとて、オす一日の商戦終つて、書齋は早起きして新鮮なる空氣を吸はせよとの命懸しさ

「一言にしていへば諸問題に深く思を潜め、想未だにその理由不明。早朝君は黄金の殿堂、釜屋商店を練つてやまぬ。世界思潮「怪人、諸橋元三郎君の散

「帳場の怪人」ともいふべきか？ 君の頭髪は、モダンボーイの如く、滅茶苦茶に、自然にチヂレ、眼鏡を踏んで午前六時、堂の前奥、冷明に光る眼は、透徹附近を散歩して居つた。霧の早起と勤勉に學

せる理智を表現し、感興一の中、一丁直前歩み來る壯さか？

君の人物管見、斯くの如し。君以つて如何の？ 無階級者は、他人の石と

断想

本紙、前號紙上に

郷土に於ける文化業者界の

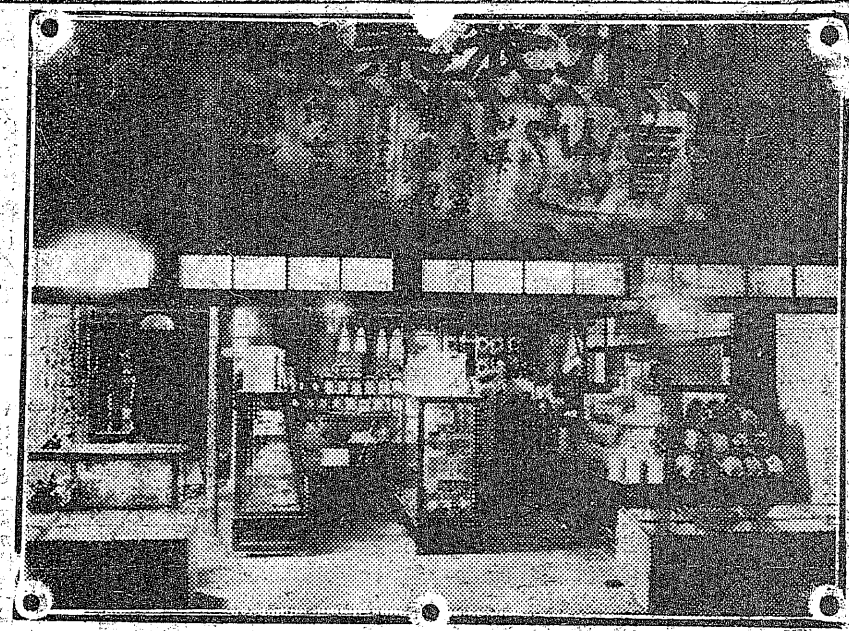
最新知識の所有者である報

知新聞平支局長、榎本雅兄は、雄渾聖麗なとして、華想的なる健筆を揮つて「新秋窓を訪れて」

の極めて、學究的、思想的なる論文を寄せられた。私は、榎本兄の論全體ナンド？ 古池丹後澤

文を一讀、再讀、三讀、仔細に精讀して、ツクト、私の思想、文章、が時代後

是れ正に私の頭上に、私の



永野 キャンデー ストア

- 特製生菓子
- 御祝儀折詰物
- 永野特製パン

平町二丁目

(電話七五五番)

結句に於て血叫した。

斯の哲言は、詩聖ダ

ハの言の葉だ。此の偉大なるフーレンス人、ダン

テの一言、「汝の道を歩め！」インスピレーションの道だ。

如く、私の心を震撼してやまぬ。私のみ偉人を知るのだ

英雄のみ英雄を知るのだ。ダンテも「汝の道」を勇

取に突進した。カール、マルクスも、そして孔子も芭蕉も。群言撫象 如き愚凡

大津町會議員一同

森田 酒井 太郎

山形 吉平

日比 和太

依田 幸七

樫原 義衛

市村 幸七

磯山 陸藏

金澤 保

小村 朝吉

鳥居 浅二

伊藤 榮次

鈴木 伊勢

川本 松吉

西原 松吉

小松 紋兵衛

柴田 祥平

米穀商 茨城縣多賀郡大津町

電話六番 (電略カネコ)

茨城縣多賀郡關本村

電話六番

茨城縣多賀郡平海町

電話十五番